

(件名) 鹿児島県内の県内地域相互間での修学旅行の実施についての陳情

(陳情の要旨)

1. 本県の子どもたちの郷土愛の醸成や観光関連産業の需要創出の観点から、鹿児島県内の小学校の修学旅行を県内で実施していただきたい。
2. 修学旅行の秋期の混雑に伴う感染リスクの上昇等に鑑み実施時期の分散化を図るため、春期(4月～7月)の実施にも配慮いただきたい。

陳情の理由

平素から本県への観光客並びに修学旅行の誘致につきまして、各段の御理解と御配慮をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症の収束が依然見通せない中で、再び修学旅行をはじめとした旅行の取り消しや延期が相次ぎ、観光業界のみならず様々な関連業界におきましても、事業継続や雇用面において極めて厳しい状況が続いております。

私ども観光業界の現状としても、マスコミで報道されている以上に、どの企業もギリギリの状況で経営しているのが実情です。

今後、東京を中心に令和3年3月7日までの緊急事態宣言の解除が、それ以降も延期となりG o T o トラベルの休止も続くような状況になれば、5月以降に閉館や倒産に追い込まれる企業が続出するのは必至であります。

このような中、今年度の県内の各学校における各地域間の修学旅行の実施につきましては、多大の御尽力を賜りありがとうございます。

おかげさまで、これまで県内の多くの小学校をはじめ、中学校、高等学校におかれまして、県内各地域で修学旅行を実施いただいたことで、多くの旅館・ホテルを御利用いただき、厳しい状況が続いた観光業界にとっても大きな助けとなったところ です。

今年度、県内の各学校におかれましては、修学旅行の実施については、新型コロナウイルス感染症防止対策を最優先し、その取扱いについて御検討されてこられたものと拝察いたしております。

御承知のとおり鹿児島県は、日本の歴史に大きな影響を与えた歴史・文化資源をはじめ、多様な自然体験、平和学習、農業・漁業体験、島体験など全国でも有数の学習体験素材に恵まれております。

また、コロナ期において「地域をまたぐ移動への慎重な対応」や「安心・安全かつ有意義な修学旅行の場の提供」が引き続き求められている中、私どもといたしましては、関係団体と一丸となって鹿児島県内の児童、生徒の大切に貴重な思い出となる修学旅行が、県内各地で実施できるよう感染防止に万全の対策を講じております。

今年度、県内での修学旅行を実施した学校からは、郷土を見直す良い機会となったなど好評の声もいただいております。

このような状況の中、私ども観光関係4団体といたしましても団体の枠を超えて一致団結し、この窮状を乗り越えるために活動いたしております。

令和3年1月27日、鹿児島県議会産業観光経済委員会との意見交換会、同2月2日、鹿児島県PR・観光戦略部観光課、県観光連盟との対策会議、同2月15日、鹿児島商工会議所と連携した今後の対策会議など、私ども観光に携わる団体・企業各々の自助努力を含めた対策を話し合っております。

私ども観光業界は、県内の児童・生徒の心に一生の思い出として残るような素晴らしい修学旅行が実現するよう、一丸となって精一杯のおもてなしでお迎えし、引いては、本県の未来を担う子供たちが、郷土を知り、郷土を愛する心を育む機会の創出に貢献したいと考えております。

また、全国的な新型コロナウイルスの再拡大により、新年度の修学旅行の実施時期について、春先（4～7月）に実施予定の学校が、秋への変更を検討する動きが見られるところです。この結果、修学旅行が秋に集中し、混雑することも予想されております。実施時期の集中は、旅行日程の制約や旅行費用の上昇、感染リスクの増大などにもつながると考えます。

以上のような環境を踏まえますと、私どもといたしましては、来年度の県内学校の修学旅行につきましても、引き続き、県内において、春先に実施することが非常に有意義かつ合理的であると考えております。

さらに、県内での修学旅行は、裾野の広い観光関連産業の需要創出につながり、多くの雇用を守り、本県経済の再生・活性化にも大きく寄与するものと考えております。

つきましては、来年度の県内小学校の修学旅行について、より多くの学校が県内での実施を進められるとともに、その時期についても、分散化が図られるよう、なるべく春先（4～7月）での実施となるよう、お力添えを賜りますようお願いいたします。